

身近な地質スポット

上野城/三重県上野市

伊賀盆地の位置は、南北に細長い三重県の中央部から西にとび出した部分にあたります。そのため北は滋賀県、北西は京都府、南西は奈良県に接しています。南西部（名張市の南西）には室生火山群があり、これに伴った海成の第三紀層もあります。北部は丘陵地帯を経て琵琶湖に続いています。東は布引山系を経て伊勢平野に下ってゆくことができます。

上野市駅前の芭蕉翁の銅像を見て、この北側のとおりを西へ進むと学校通りに出ます。この道には市役所、西小学校、上野高校、藤堂藩崇広堂、図書館、崇広中学等があり、上野高校の裏には白鳳城がそびえ立っています。さらに西へと進むと、下り坂になり下には荒木衛門仇討ちの鍵屋の辻があります。ここから撮影方向の堤防が西に見えてきます。撮影方向から東をふりかえって見ると、台地の上に市街地があって、北のほうには城が見えます。この台地は河岸段丘で第四紀洪積世から沖積世にかけてできた地形です。段の数は全部で5段あります。



写真1 長田小学校から見た上野市街地の段丘（撮影方向は、地図を参照）

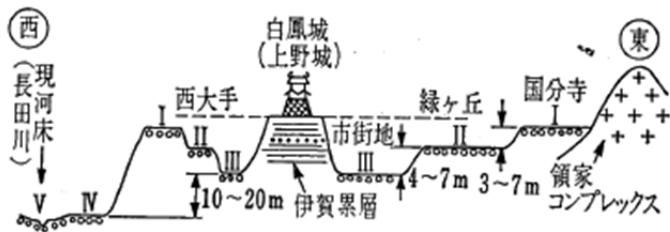


写真2 上野城



写真3 上野城の裏側(玉石がたくさん転がっている)

城のある所は第1段丘で、そのすぐ南の少し低い所が第2段丘、これから南にかけて人家の密集した所が第3段丘です。さらにこの下の平地（堤防の下）が第4段丘で、この中を現在の川が流れていますが、これが第5段丘です。ここで市街地の段丘についてまとめておきます。



I, II, III, IVは段丘面, Vは現河床。

左の断面図(出展:「三重県地学のガイド」磯部克著/コロナ社/1979年10月25日出版)は、市街地の東西方向の断面図です。撮影方向から見た段丘はこの図の西側のもので、I、IIが西大手町、IIIが市街地、IVが堤防まで歩いた道で、Vが長田川です。これらの段丘面から砂礫を採集して礫質を調べてみると、ある時代にどの方向の山地から、どんな礫が運ばれてきたのかよくわかります。



△断面図



余談ですが、地質スポット付近にこんなお店がありました。

場所は上野市駅から徒歩で約200m程の距離となり、伊賀市役所のすぐそばにある『若葉』というお店になります。駐車場は、お店の裏側にありますが、私が12時近くに伺った際にはすでに行列ができており、満車状態でした。

こちらのお店では、『つけそば』が有名なようで、私も

注文をしてみました。写真のように、麺はかなり太麺で強いコシのある麺となっており、つけだれは鯉節を凝縮したような濃厚なつけだれとなっていました。生ハムのようなチャーシューもそのまま食べても絶品です。食べ終わったあとは、スープ割もできますので、最後まで楽しむことのできる『つけそば』でした。

【店名】 若葉

【住所】 三重県伊賀市上野丸之内 126-1

【営業時間】 11:00 ~ 14:30、18:00 ~ 21:00

【定休日】 火曜日、祝日、水・金・日の夜

